

## コーディネーターニュース 負の広報マンを作らないために

第1ゾーン ロータリーコーディネーター補佐

酒井 正人

(函館五稜郭RC)

地区とクラブにロータリーの戦略計画の推進と実施を支援するために、ロータリー・コーディネーター(RC)、ロータリー公共イメージ・コーディネーター(RPIC)、ロータリー財団地域コーディネーター(RRFC)が、地区ガバナーをサポートしています。なかでも、ロータリー・コーディネーターは「クラブのサポートと強化」を担当します。

ゲイリー C.K.ホアン会長から、ロータリーの会員数は2014年11月30日現在1,217,576人と2013年7月1日時点と比較して29,037人増加したと報告を受けています。第1ゾーンも期首に比べて858人、第2ゾーンは683人、第3ゾーンは889人とそれぞれ増加して総会員数は89,199人になりました。

ひとつの方法ではありますが、データから第1、第2、第3ゾーンの2014年10月の退会者数を入会者数で割ってみると、それぞれ順に67/181で37%、76/164で46.3%、91/223で40.8%になり、3ゾーン合計でみると234/568で41.2%になります。当たり前のことではありますが、分母の入会者数を大きくして分子の退会者数を小さくすれば数値は小さくなりますから実質会員増加率が良いことになります。是非、皆様の地区やクラブで算出して、他地区、他クラブと比較し参考にして下さい。

さて、この分子の部分を考察してみます。つまり、退会者について考えます。(1)健康上等のやむを得ない問題(病気、死亡)(2)職場等の事業上の問題(転勤、退職)(3)その他があります。「転勤」の場合

にはSAKUJI作戦を積極的に活用する方法があります。「退職」はクラブ会費の見直しをしてはどうでしょうか? 会費の中身はクラブ運営のための絶対経費(事務費、RIと地区分担金等)と食費に分けられます。退職者の多くは高齢者が多いので、クラブ在籍年数も多く出席規定の免除を受けられる会員であると思われる。ですから出席した時のみ食費の負担をすれば、経済的負担を軽減できます。問題は「その他」に分類される方々です。すべて理由を把握するのは困難です。しかし、その中にはクラブ内の人間関係やロータリークラブに魅力を感じず、退会をしてしまう方々が多いことも事実でしょう。このような場合、クラブ内の人事や、やり甲斐を感じずの奉仕活動が効果を発揮することがあります。必要とされていることを実感してもらうプログラムが必要なのです。皆様のクラブは如何でしょうか? 会員にやり甲斐を感じるプログラムや人事をしているでしょうか?

不満を持って退会した会員は「負の広報マン」になる場合が多いのです。クラブに不満がある場合には意外と不況や年齢や健康を表向きの理由として、退会していることが多いような気がしてなりません。退会者を少なくするためにもクラブの戦略計画を立てましょう。退会者数/入会者数の分母である入会者を増やしても、退会者が多ければ穴の開いた器に水を注ぐようなものです。何処に穴があるかを探ることからはじめてください。「負の広報マン」を作り出さないためにも。